

辞書の使い方 (1)

年 組 氏 名

【日本の辞書の歴史】

みなさんは、日本には辞書がいつごろからあるか知っていますか。現在、残っている辞書の中でいちばん古いものは、あの有名な弘法大師こと、空海がつくったとされる、『篆隷万象名義』といわれるもので、平安時代の初め、八三〇年以後につくられたとされています。でも、もっと古い辞書もあったのです。それは、『新字』という辞書で、全部で四十四巻にもなる大きなものです。この『新字』は、六八三年に成立したとされていますが、六八三年といえは、まだ飛鳥時代のこと。はたしてどんなことが書いてあったのでしょうか。興味あるところですが、残念ながら、この『新字』は、現在、残っていないため、その内容は不明です。

『新字』から遅れること、約二五〇年。日本で最初の百科事典ともいえるべき『和名類聚抄』(和名抄)が、源順という人によってつくられました。この『和名類聚抄』は、日本や中国の多くの書物から、実にたくさんものの名を集め、それを分類して並べたもので、全部で二十巻にもなる大きな事典です。

源順は、さぞかし苦労してつくったことでしょう。

さて、時代は下って、安土・桃山時代から江戸時代。この時代、多くの宣教師(キリスト教の教えを説く人)たちが、キリスト教を広めるために日本にやってきました。彼ら宣教師たちは、日本語を理解するために多くの辞書を作りました。これらの辞書には、ローマ字を使っているのに、とても貴重な資料になります。有名なものに、『日葡辞書』(日本語・ポルトガル語 一六〇三年)があります。



【漢和辞典 引き方のポイント】

国語辞典はよく使うけれど、漢和辞典はあんまり……という人、いませんか。

漢和辞典を引くと、漢字の読み方、意味、使い方だけでなく、その漢字の成り立ちや筆順、画数、部首などもわかります。

ぜひ活用しましょう。

★読みがわかれば「音訓索引」!

音訓索引には、読み方の五十音順に、漢字の掲載ページが出ています。ふつう、音はカタカナ、訓はひらがなで示されています。

例えは「テイ」と読む漢字はいっぱいあるけれど「にわ」と読む漢字は少ないよね。だから、「庭」という漢字は音で引くより訓で引くほうが速いんだ。訓がわかっているときには音より訓がおすすめです。

★部首がわかれば「部首索引」!

1 部首の画数を数える。

2 部首索引でその画数のところを探し、その部首の出ているページを見つける。

3 そのページを開く。その部首の漢字が、部首を除いた部分の画数ごとに並んでいる。

4 部首を除いた部分の画数を数え、その画数のところを探す。

……たいていの部首は、その始まりのページに部首の名前が書いてあるから、ついでに覚えるようにしよう。

★読みも部首もわからなかったら「総画索引」!

見たことのない漢字が! そんなときは漢字の画数を調べ、総画索引で引こう。

……画数の数えまちがいに注意。

「郷」は何画? 「延」は? 「発」は?

実践 こんなときは、この辞書をつかえ?

[例文1]

軽井沢に冬が来ると、野鳥たちの天国になります。
①ぼくの②ペンションのまわりにも、いろんな野鳥や、野生の動物たちが遊びに来てくれます。だから、朝は、だれよりも早く起き出して、熱いコーヒーを片手に、野鳥たちの姿を眺めます。野鳥たちは、ひねもす鳴き続けてくれます。また、夜は、スコッチ③を片手にしながら④狸や狐や⑤テンなどの姿を見ることができます。

- ①「軽井沢」ってどこ? ⇒「地名辞典」
- ②「ペンション」ってなに? ⇒「現代語辞典」
- ③「ひねもす」の意味は? ⇒「国語辞典」
- ④「スコッチ」ってなに? ⇒「外来語辞典」
- ⑤「狸」はどう読むんだろう。⇒「漢和辞典」
- ⑥「テン」ってどんな動物? ⇒「百科事典」

[例文2]

どういうわけか、とんびはくると輪を描くことになっている。しかも、夕焼け空が似合うのだ。とんびはタカの仲間でありながら、昔から「とんびが鷹を生む」とか「とんびに油揚げをさられる」とかいわれて、あまりよいイメージをもたれていない。でも、とんびは、③イヌワシや④クマタカと同じ、れっきとしたワシタカ科の鳥なのだ。ワシタカ科の鳥は、ふつうスピード感あふれるハンティング⑤をすることが知られている。しかし、とんびはハンティングが苦手だ。……

- ①・②この慣用句の意味は? ⇒「慣用句辞典」
- ③・④どんな動物かな? ⇒「動物事典」
- ⑤「ハンティング」の意味は? ⇒「外来語辞典」